

# ミニおにぎり集会でパイプラインをしよう —もっと仲良くなるために—

1年 特別活動 9月 6Q (2時間)  
附属新潟小学校 教諭 八子 正彦

## 1 本単元で目指す姿

**他者の意見に共感して話し合い、見いだしたことを生かして遊びを楽しむ子ども**

「はじめは、あまり玉が回って来なくてつまらなかった。でも、全員チャレンジで列を伸ばしてみたら、結構玉が回ってきたし、列がすごく長くなっておもしろくなった。みんなでいろいろ試したり意見を言ったりして、パイプラインが楽しくなってよかった」などと、遊びが楽しくなった理由を振り返る姿。

## 2 本単元で育成する資質・能力（評価基準）

①知識・技能	②思考力・判断力・表現力	③態度
○集団や人間関係をよりよく構築していくための知識や技能	○集団の問題に気付く力 ○合意形成を図る力 ○話し合って決めたことに取り組む力	○多様な他者と協働して、集団や生活上の諸問題を解決し、よりよい生活をつくろうとする態度

## 3 関連する学習

[第1学年] 特別活動  
—ミニおにぎり集会で凍結オニをしよう—



[第1学年] 特別活動  
—ミニおにぎり集会でパイプラインをしよう—

## 4 単元の計画

	【学習活動】☆資質・能力	【働き掛け】	Q
特別活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ CCTでパイプラインを行い、その感想を書く。</li> <li>○ 遊んで「楽しかった」「楽しくなかった」と感じた人数を見て、自分と異なる感想をもった人がいることに気付く。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・えーっ。楽しくなかった人がいるんだ。</li> </ul> </li> </ul> <p><b>○ 学級目標のおにぎりにみたいに、みんなまとまってなくてバラバラだよ。 ☆特別活動②</b></p> <p>学習課題 ◎ もっとみんなで楽しく遊びたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 遊んで「楽しかった」「楽しくなかった」と感じた理由を考える。(全員チャレンジが楽しかった子ども) <ul style="list-style-type: none"> <li>・列がすごく長くなって、おもしろかったから。</li> </ul> </li> <li>(全員チャレンジが楽しくなかった子ども) <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分のところに1回しか玉が回って来なかったから</li> </ul> </li> </ul> <p><b>☆ツール活用能力</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 楽しくなかったと感じた理由から、その原因を解決する方法を考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>※ パイプラインについての感想を集約する。</li> <li>※ パイプラインのアンケート結果を提示する。</li> <li>◆ 遊んで「楽しかった」「楽しくなかった」と感じた人数を提示し、感じたことを問う。【働き掛け1】</li> <li>※ 「これは、みんなが目指す学級目標の『おにぎり』になっていますか」と問う。</li> <li>◆ 遊んで「楽しかった」「楽しくなかった」と感じた理由と、もっとみんなで楽しく遊ぶための解決策を問う。【働き掛け2】</li> <li>※ 「楽しかった人は、パイプラインが楽しかったのですか」と問う。</li> <li>※ 「楽しくなかった人は、なぜパイプラインが楽しくなかったのですか」と問う。</li> <li>※ 「楽しくなかった理由を見て、どうしたらもっとみんなで楽しく遊べるようになると思いますか」と問う。</li> </ul>	3Q 1時間

○自分のところに1回しか玉が回って来なかったという理由を見て、ゴールをもっと遠くして列を伸ばせばいいと思った。

○待ってる時間が長かったという理由を見て、チームで競争すればいいと思った。

★特別活動①

○自分たちの考えた、楽しくなかった原因を解決する方法を共有し、その有効性を考える。

○前は1回しか玉が来なくて楽しくなかったけど、これなら自分のところにもたくさん玉が来て楽しくなりそうだと思います。

○全員でやったら待ってる時間が長くてあんまりできなかったけど、けど、前みたいに2つに分かれればたくさん遊べて楽しそう。

★特別活動②

○話し合いによって出された解決策を試す場を設定する

・列を伸ばしたら、自分のところに3回も玉が回ってきて楽しかった。

・競争したらすごく盛り上がって興奮した。

★協働性

○玉が何回も回ってくると楽しいから、全員チャレンジで列を伸ばすのがいいと思う。

○2つに分かれた方がたくさん玉が来て楽しいから、2つに分かれた方がいいと思う。

★特別活動②

○どちらの解決策が課題を解決できそうなのか、集団決定する。

○全員チャレンジで列を伸ばすことになったから、玉をつないでみんなで楽しく遊びたいです。

★特別活動③

○話し合ったことを生かして、ミニおにぎり集会を行う。

○はじめは、あまり玉が回って来なくてつまらなかった。でも、全員チャレンジで列を伸ばしてみたら、結構玉が回ってきたし、列がすごく長くなっておもしろくなった。みんなでいろいろ試したり意見を言ったりして、パイプラインが楽しくなってよかった。

◆ 解決策を共有させ、その有効性を問う。【働き掛け3】

※「全員チャレンジで列を伸ばすというのは、どういうことか分かりますか」と問う。

※「自分のところに玉が来なかったという人は、これで前より楽しく遊べそうですか」と問う。

※「2つに分かれて競争するというのは、どういうことか分かりますか」と問う。

※「待ち時間が長くて楽しくなかったという人は、これで前より楽しく遊べそうですか」と問う。

◆ 出された解決策を試させる場を設定し、どの解決策を取り入れるか集団決定させる。【働き掛け4】

※ 試しの活動によって、何を検証するのかを明確にさせてから試させる。

※「全員チャレンジで列を伸ばしてみ、前より玉がたくさん回ってきましたか」と問う。

※「2つに分かれて競争してみ、前よりもたくさん玉が回ってきたり、競争して盛り上がったりしましたか」と問う。

※「みなさんは、どちらの方法だともっとみんなで楽しく遊べると思いませんか」と問う。

※ 話し合いの振り返りを書かせる。

◆ ミニ集会を設定し、振り返りを書かせる。【働き掛け5】

※ 活動全体を通しての振り返りを書かせる。

3 Q  
1 時間